

う、せいしばうとて聞えたる大あくそう二人ありけり、くはんをんばうはくろいとおどしのはらまきに、しらえのなきなたくきみじかにとり、せいしばうは、もよぎおどしのよろひき、こくじつの大だち持て、二人つとはしり出、延暦寺のがくをきつて、おとし、さんく、にうちわり、うれしや水なるはたきの水、日はてるともたえずとうたへとはやしつ、南都のしゆとの中へぞ入にける。

清水ゑんじやうの事

山門の大しゆらうせきをいたさば、てむかひすべきところに、こゝろふかう、ねらうかたもや有けん、二ことばもいささず、略中おなじき二十九日の午こくばかり、山門の大衆おびた、しう下らくすと聞えしかば、略中され共山門の大しゆ六波羅へは寄すして、そゝるなる清水寺にをし寄て、佛閣僧ばう一字も残さず皆やきはらふ、是はさんぬる御さうそこの夜の、くはいけいのはおをきよめんがためとぞ聞えし、清水寺はこうぶくじの末寺たるによつてなり、

〔玉海〕元暦二年元治十一月廿五日甲辰、豊明宴會也、略中傳聞御前試夜、少將雅行與侍從定家、有

鬪諍事、雅行嘲哢定家之間、頗及濫吹、仍定家不堪忿怒、以脂燭打雅行了、或云、打面云々、依此事定家除籍畢云々、

〔吾妻鏡十四〕建久五年六月卅日己未、於武藏國大河戶御厨、久伊豆宮神人等、喧嘩出來之由、有其聞、依驚思食、爲令尋沙汰被下遣掃部允行光、云云、

〔吾妻鏡三十四〕仁治二年十一月廿九日壬子、未剋若宮大路、下々馬橋邊騒動、是三浦一族、與小山之輩有喧嘩、兩方緣者、馳集成群之故也、前武州、北條太令驚給、即遣佐渡前司基綱、平左衛門尉盛綱

等、令宥給之間、靜謐云云、事起爲、若狹前司泰時、能登守光村、四郎式部大夫家村以下、兄弟親類、於下馬橋西、頗好色家、有酒宴亂舞會、結城大藏權少輔朝廣、小山五郎左衛門尉長村、長沼左衛門尉時